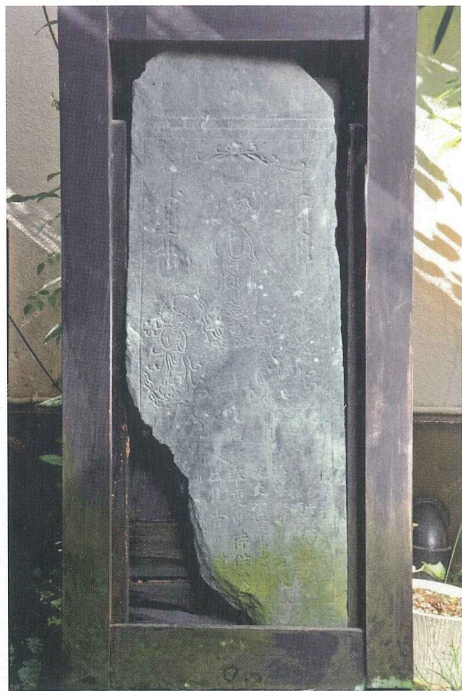


阿弥陀三尊来迎図像庚申板碑



〔指定年月日〕平成三年一〇月二八日
〔種別〕有形文化財（古文書）
〔名稱〕阿弥陀三尊来迎図像庚申板碑
〔点数〕一基
〔所有者等〕世尊院
〔所在地等〕阿佐谷北一―二六―二

阿弥陀三尊来迎図像庚申板碑

縦一〇二cm、最大幅三五cm、厚さ三cm前後の石碑で、板碑変遷史上では後期大型板碑に類するものであり、境内中庭に屋根付木枠によって固定保存されている。天蓋は浅く広がりのある様式で、簡略化された瓔珞が付加されている。上部三分の二に阿弥陀三尊像が画かれ、下部三分の一に「天文十三年（一五四四）甲辰二月吉日」紀年銘、「奉庚申待供養」と造立の主旨、その下に「結衆の人々の名が列記されている。

阿弥陀如来像には、月輪・頭光を配し、肉髻珠・白毫が記され両手で来迎印を示している。観音・勢至の両脇侍菩薩は月輪を配し、宝冠を戴き天衣をひるがえしている。観音菩薩は蓮台を捧げ持ち、勢至菩薩は合掌している。三尊像の下に三具足と前机が画かれ、前机には右から燭台、香炉、花瓶の順に並び、花瓶には、三茎の花が添えられている。

庚申信仰にもとづいて造立された板碑は、都内においては比較的数量が少なく、現存するものはわずか数基にすぎない。なかでも図像のものは稀である。

本板碑は、区内唯一の図像板碑であり、作柄も優れ、また都内でも数少ない庚申板碑として貴重な資料である。

【文化財所在地】

